

<u>م</u>	5 ]	11	魏	-			÷		1		豊	Ļ	島		品	Ī	敗	· _		<u></u> д	•	<u> </u>		ス	۲.		召和	25.	年	1月	10	日.	, · (	2)	
に非常な支障を來たし一時休 勞感の減退及罹病者數の減護學園では見童が集らない爲 物語るかのような作業後の	開けば他區経營の養 ような元氣さ、体力の向上	にも極々の困難がともないと明朗な生活から來る溢れ	<b>居る今日、健康教育</b>  体重の順調な増加は勿論の	何の事業にしても經營難を に見るべきものがありまし	感謝する次第であります。 りを顕みますと健康度の増	りまして有志各位の御薎力 あります。 今兄童達の生活	カして居る事の現れで   甚の感謝の意を捧げるもの	の事業を開始日的の達 りましてこれ又有志各位に	豊島區が他區に卒先  御送助をおしまない現状で	5に堪えぬものであり   岡村は全村一致して歌迎さ	兄童健康教育の實踐と見童生治の受入れ地である	奴法りつつおります。あるのであります。	ムり早くも三年半卒業 育に障大なるものを興えつ	<b>営島區営として誕生し」りまして、見重達の心身の</b>	本學園は昭和二十一  豊富に供給されて居るので	術を述べて見たいと思言のもこ所详な自毎の実験	彩生を送る事になり所 とるものばかりであります。これが同芸語尊優第十 賢美に優勝地としての姫鶴	- 二方周嗣をは言う二百年に思えた。 - 二〇千年(四〇十二〇十二)三〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇十二〇	の二系。この口(系)) 「摩鼠長は今回の卒業」四季の温和な氣候に悪まれ	より收容力の限度に迄一岸に位置し、風景の美に勝	参加は既に同學園諸般 一〇〇粁はなれる南房總の	一途を辿り、今回の五 御水知の通り竹岡村は都心	兄策も回を重ぬる度に 上げる大第であります。	意義を架からしめていた有志各位に厚く厚く御禮	ことは窓々司一に御送助と御協力をいただに驚異企業うしまれまして、「才昌国見言募	る皆先十二条長の攻合したこと、民塁国見道案は、参加完立の健康度してどう方式要力算でため	・※日に、14~~の成一関係でこれ以上は收客出	業生を送つた。由來同學 たのであります。 食糧事	經て舊殿十三日第十一回   に增加し遂に五十一名	十一年發足以來順調なる足一では收容見意が回を重ねる	である竹岡菱荻學園は昭和しありますが、豊島區の本學	<b>意の寝護施</b>  止の狀態にある所		<b>菱</b> 遷 翠園の 或果・	
少  がこの數字は現一年生即ち昭波  二名といふことになりました	了しました。その結果三六	ましたが、此程その集	適齢兒童の調査を進めて	め、十一月末日を	保護者から就學調査書の	本區では各出張所を通じ	までの方達で	八年四月二日生から	迎えた子供さんは	年明け	僕も私も今年か			ハニトニョ ととを見	二十日 七百年後多月		│ // 十六日 財務委員會	十五日 議長會	一一十日 各派幹事長會	// 九日 定例議長會	八日 教育委員長會	一// 七日自治振興委員長會	一二 二月二日 一日 一日 二月二日 一日 二月二日 一日 二月二日 一日 二月 三日 三月 三日 二月 三日 三月 三日		い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	谷井 宮 注野 デア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	一卸音算を易りていと存じま	低批判される時、此の	健康教育という事が高く	るのであります。	に追はれながら努力致して	したが職員は多忙な	が健康度の測定という事であ	と喜成しつつあるの	宜達は確實に健康教
御申出下さい。	、可愛御子様の爲未申	うことに	る方	他の都合	學を希切	調査事	漏れが相像されます。	加率か	〇名に比し又、本協	和二十四年度就學見童の三九	ら學校		_	これを発見ることを見ていた。 一次の一分回東に回長、洋防渠	る唐知手段を開じた	報榜を認	して要	りない。 オ	安なる課題と言はなければな	保全するかは緊急不可欠の重	りこれ等き	ある阋兄で	「法」とい題ととと同しつへ	辞設備に至つては、公財政の	又一面校具、教材の	して	下、卒	へ と !	より更て進しで三部オの見た方言に行って	13	次置に、お客犬とり所放副でき 降一次 高いまで	国交加受っ 定定して に 振り 潰滅に 振した本	直合の信	「「「「「「「「」」」」。	<b>季交坊</b> 新こ
<ul> <li>二 高田南町一丁目一九九</li> </ul>		<u></u>	私有地	:	有地		稻荷神社		宅					パ ( 縦鳴五丁目一一一三	社 	豊富語洵入三厂ヨョニー	奥定器所は大の重りである。 単俯中でまそう	と前れていた。 場所の運定を終り、目下工事	業、土木各委員會に於て大体	これは先に、文化、社會事	る事とな	樹等設けた、小供の遊場を作	外さく、砂場、ブランコ、植れたの、切片で注えています。	呈更の、敗也を選んでこれと	題々に十六ヶ所平均二〇〇平		子供さんたちの	<b>完璧を期し得た。</b>	諾を得るに至り、學校防衛の	至七〇名總計約三千名の御快	戸を歴訪、既に各校三〇名乃	當課長、關係學校長に於て各	なつた、これが罵旗殿地區撥	る長崎とと経済することとに、対策国民の緊急時お送れ既す	學
ます。、必ず忘れぬよう願い	「外に退去させられ	期間内に手縦をしないと良	なへてあります。		を申請して下さい、登録申請	あたらしい登録證明書の交付	て現居住所の區役所出張所に	は寫眞はいりません)をそえ	二枚(蒳一〇字にならない人)	最近六ヶ月内にうつした寫眞	各自現在使用の登録證明書と	ての間に		- リーブモズ 4	ー月十たヨから	む) 谷位は	外國人(朝鲜人台湾省民を含)	て外国ノ登金諮別書かかれい	これ取り登録使月春がいって一今回夕極人登録令力改正され	「「「して		<b>小國人登録証明書</b>	~~~~~	。茵製管工場	〃 推名町八丁目四、○		ッ 住名町三丁ヨー九〇七 	✓ 長崎一丁日二八	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		<b>都有地</b>	" 池袋三丁目一〇五三	^ 池参王□目三○三		8

	(3)	)	第	11	號				豊	峊	-	EF.	政	-		ユ						昭	和 29	5年	1月	10	Ħ
	專 <b>免</b> − ○、六	母税 七、五	事業税一四六、一三七				に分けて	と内かっぱょうつい、たことが、全部でどのくらいの税金	あります	一度分は終	の切符で	(最長が納める都税)	下さい	納税に御協力	と共に、憂慮すべき青	動を通じて道義の昻揚	を起し、	日をして意義	登の上にたち、國や象徴する	義國家である	國旗を立て	とである。日本國民たる	あるのは、まことに遺憾	な國族を掲げることすら	か、國民として後もの税日の意義が徹底	年月を過て來たが	である。投武より民の祝日は新日本
五	動産取得晩附加晩れ	使用人稅 一七六	税利 モル	荷倉虎 ビュニュー 自轉車税 四、六七一	我 一六、五一	けの部(単位千回)	、四五〇圓になり	、つつつしょーし高い五八〇回となりまた、二	で割つて見ると一世帶	日現在の世帯敷五二、〇〇〇	であります、これを十二月一番によります、これを十二月一番	告税其他 九、六九五	動機税 三二九			をとこるとになっていれ間がのフラ出象をより	捩じな 刻 気の く 手 出 医 ら に う た 人 々 の た め に 、 優 良 に し て	れと共に、國旗を焼失し	計ることになって。	國民の祝日趣旨	、よう	30	祝日には必ず戸毎に國族の掲	日の意義を散ますると共 ためを無いするとよ く	の感激と無これることなく、限病場を許可されている。こ	元師も、國旗の	なければならぬ。
協力していたいきたい	明會	がありませうが、これ	家庭でも會社でもいろいろの世になりない話であります。	トの成積でお	三副日	四割は整理に依つて	度新され	朝日三二日内納税成職につ	す。	一、六八八圓となるわけであ	「おと創で一人當りの免金は」「「「」」の一世帯の我金は二、四	島	一人常り二三八国と云ふこと	計 四七、七〇八	の消費者や使用者でなく産業	特に定められた修理業(一般)」かコを主第とする事業別及び	は昭和二十四年中に製造又は	この調査に該當する事業所	要な周至でありますサスの下準備的意味	つて特に本年行われる	記封のか	調査は我が國の工業全般必ず非告して頂きたい。	主の方は一月二十日	<b>管施されますから該當事</b>	は例年の如く十二月未日現在昭和二十四年度工業統計調査	申告は一月二十日まで	●工業統計
局貸付不適格	十三二八十一、二二七萬町三萬圓まで80件 五三八萬回	まで38件 六八九	當金額一、	ものである。  三四〇生	かけたが、異情なく決定した	商各を審査し、都報査会調査員の意見に基いて、	。資産の多い經濟力豊かな	って欠のようこます決定と見た當り、地區審査會に之を諮	こして民生委員が調査	件と云う意外の口敷であつ	るのを恐れた常局にも三百四親でかまった。そのするのを恐れた常常にも一番のです。	推立い らつ こくりいく 安川 し初めての誠みと申込條件に够	貸付狀況	東京都生業資金	から御注意して下さい。	GHQ當司も虽周していまい不正申告は毀重に取締ろ	にありのまゝに申告して頂き」	統計以外の目的には絶對位等には優力へ調査の新	いた、周日の昔日であり資材配給賞	重はいうまでもない	業が青銅となつていま査票は製造工業が黒剛	保に申しでて下すは出張所或は認知	所に配付しますがもし	票は所脳出展所より各該	会託せられる事業所しを	的使用者から機械器具の修理	調 查
も引揚者数の四分の一程度は	ころとが夜宮谷は冬夏にせしめるにあり、豫想し	三通の請求書を本人から	して證據書類等の提出を求めけてまる。置に於て承付物と	単に債務を確認するに止るだ	方法は別個の法律で規定されことであり、協感の支持時期	借入金確認證明書を交付する	防省が國の債務として承認しることとなっている。之は外	本年の三月十八日まで受付け	布されて即日事務開始となり	た。十二月二十日に攻令が公司総督です。	手滾ととつてもうことによっ	その資金を提供した當時の引	から借入れた資金について、	終戦後月本の在外公館或は	確忍清求こついて	生外公館等昔入金	はそれこそ門前市をなすの	高あり、 次回に行わるい場かっせる として言いたとして	かく初後已と重して置えるり余りに徹底しなかつたゝ	で据置を云う格安のもので	價であり最初の一年は無利で年步としては九分一厘の	尚お之が利子は日歩二錢五厘果を弱け得たものと思はれる	りの生業資金として大いに効	に然えた區民の文字通	見て、生計を保つべく更生の五日間に互つて殆んど終了を	決定通り十二月十二日から	た。でこの貸出事務は師走半あり、殘(差)額は皆無だつ
「作言ナし漢国政党	陵子しいテキュ、統領に恐いは毎月一回の相談事務資施は	奉	まカ	1 8	去る夏行つた法律相談に於て) 貧商したいと思います。 創た	「二		法律結婚相談について	はならないと考え	も大いに之が管現に邁	何に基す模様なので低として表示。	そとまたしてたドレビ前の道としても年内に二十ヶ所の設	質屋設立を選みついあ	予や客事なこし、 所呈りるなど 調査を 重ね、出来れば	のもの、倉庫の存在するとこ	答こして現在木業又は学止中		屋の存在しないことは情ない」 車の空管室	, <del></del> Ψ	宮賀屋としては地	いる。凡そ三十五軒もの公誉質屋の設置を計	者を對象にして低利で貸付庶民生活の窮狀に避み、勤	公管管展部署		出していたゞきたい。 備の緊少く期日までに必ず提	「書類の整理を行い一括して不	+ が長いだけにユックリと證誤   。  あると思はれ、何分にも期間

機た設 區するか。。都歸て、巢區ののリ設、きと共すを、朝衆す化 能のの民る者しま財し來永鴨にで附本、理なし岡る喚公し知る與 とで要のこは、こ政、たく岡おあ置」自想關て書よ起共たのと隆 し、要問と、女とでそが 區書いるさシ由と連、館 うし岡遺ここに し、実問と、女	F	<b>;</b> 1	1	魏									<u>世</u> 王	Ē	3	L L L	n L	Ē	X	1		Ξ	2	_	•	ス							J 10	Ħ		(4	)	
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	つた。	施策について、リーフレッのは、單なる行事の街施	ての社會教育面の諸施設、している時、重大とすべき	の結成が、全區を覆わん	可少年 <b>劉</b> 体等社會教育副	他では、 PTA、 婦	単方面に重點が置かれ	留教育施策は、主として	昭和二十四年中の恩息區	行ている。	百出しを行い、多くの利用	幻灯機、工作機具等を無	いる。更に、紙芝居、幻灯	多數の人々が利用して來	子供の日蒌能大會、子 事部盟島讀書室を管理し、 連	がなるし、青少年教育と 果をあげて來た。又、東京民	究會、婦人の日記念講演 ために巡囘映寫し、多大の效	文化講座、婦人敎育指導 粍發於映寫機を、成人敎育の	<b>教育として、社會學級、</b> から貸與された、ナトコ十六	に實施した主な事業は、  別項の如く、連合軍總司令部	<b>巤として、昭和二十四  右のほか、本邕においてけ</b>		會	利二十四年の	ロニロ三〇		hて、恋々光彩を添く所一である。 「たくれる」、「たい」の「私る絵」「題書の一気	24.40とことは汝宣と月0月最と冬り南國の予定国の推薦を受けて參加 への答禮の意味を含めて後三	の一員として全日本中一般に來朝せる米國教育調査團	合中學校長森一郎氏育文化の質態を採り、	<b>ることゝなつたが本區  ソバー市等世界に優越</b>	<b>教育調査團として派遣  育・ボストン・コロラ</b>	単總司令部の斡旋に依 を出港ワシントンを由	がアメリカ政府の招聘に應い、一行は本月二十九日籏	回我國教育文化の代表三十一春の凱報として慶びに堪え	査團に參加	ウ 雑言 谷中 學校	「自」とコミア
	能としての甌立岡書館ので、本畠においては	設の要望が漸く强くな(	<b>區民の間にも、</b> 公共圖書	することは承知出来ない	る者は、その盡の伏追で	しかし、文化國化虛設に自		まことに残念なことで   擺の貸重か 温調され今まで か	<b>財政では穏望の狀態に一新憲法の實施により基本的人</b>	し、その再建設は、目  婦人 遅重の 叵顧	来たが、戦災により鳥	永く區民の 利 用 に 供   尙、一段の協力が望まれる。	鴨岡書館が設置されて   によつて着々收集中であるが	2都  目下、區民の絕大なる協	充を計らんとす	ま   設を見た曉に、更に誠書の擴	(會 展開し、一應、圖書館の開	同一世帯一册の醸出寄将運動を	※ を計ることは頗る困難であり	8 においては、早急にその質現	しかし、戦災の彼害甚大な本區	一册宛の所藏が必要である。し	場合、最少限度、住民一人一	┙ の光管であり、公共岡書館	品の使令の重 岡書館の機能は、まづ岡北	《國教育使節 なつた。	こある。さき 書酸出運動を展開することに	へであること あるが、その前提として、副・館の料館の 多言でおりー きごえい 日本	hao後告の 建築と決定し、 免疫情報の	書醵出運動		な 副 事 官 開 没 作 備	重照は、この如く 放記の 5	二十五年の元言発育抗労[嬰阜南注せしぬロオスてある	ニーテニン士を欠害して、  文化豐島建設えの道は、更多和二十四年を回顧して、  文化豐島建設えの道は、更多	階に向つた。  文化面の活動は昂揚せられ、	、岡書館の設置準備が街行	べきであつて、本年中、師
│ LRL席、宮女母 ○支小がキャマ のまえみを見て言語 ○祖し用国いも会社様	し、區內中學校、高等學校生	城」「弓」 以上五種目で、 参加	「おけ」「「「「「「「「」」」「「」」「「」」「」」「「」」「「」」「「」」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」「」」」「」」」「」」」「」」」」	輕舍落成記念區民体育大	って止まない。	2日皆して各選手の療斗を祈 第三回となり、	こが、本年更よ、夏傍の発冠  年中体育行政	F十三位、以上の成 敬であつ	≘三郡)は、男子十一位、女│( □	᠑	子チームが四位を獲得したの  學高校が共に優勝した	4は第二位となり、「庭球」女  つた。 學校對抗では、	女子チーム優勝し、男子チー た。一般女子の出場が		「驛座」の四位目であった。中一大台のら響か、	推薦極目「陸上」「諸球」「角力」」	球「排球」「卓球」の四面目。	予選會實施証目 「野球」「庭	下された。	依つて臨氏体育の幕は切つて をを立てよう。	三囘都民体育大會區予選會に  り、本年は昨年度以上	三月初旬に新憲法施行記念 第  せよ」の 膵が多かつた	記 會   な 一   は、受講者より 「本年		めざして進みたいものでたる  講者多く、指導者の優	發展につとめ民主化えの徹底  事ではあつたが、各種	あげ婦人の地位の向上文化の  の講習會を、咋 年初め	五年度は全地域に結成の資を 「卓球」「水氷」「庭球	未組織の地域がたるので二十一の夏明本育構習	一週体をを敷えているが未だ  盛大にやり度いものだ	殺害のあるものだけでも二十  将来は体育な質の力を	「それの見正ではこと斤」にまた一考を要するもの	きが有明な内後染症こつとう  歳が無く、風民   没つ   奥茂竈として人形訪習會を開  したことは、闘後各地		へ後の必要につき調座を開いて人格	民法經済庶民教育文化講座	婦人協議會が誕生した。以来	して二十四年二月六日翌島四

一職員バツチ」がてきました。 「職員のなのために、職員ののないの、職員のおして、ため、「「職員のなどの」と思いたのして、のないの、「」」の必要なの「「「」」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、
1.1四         1.1四           1.1四         1.1四           1.1四         1.1四           1.1四         1.10           1.1四         1.10           1.10
Tan manual and the set of the set
ま 父等ののでのの定 ななななので、 子には限行する、 なな、 新 の の なのでののでののでで、 先 た なののでののでののでで、 先 た なののでののでののでで、 先 た なののでののでののでで、 先 た な し た な し に し に な た の な の た た に し に た の な の た た に し に た の な の た た し に た の な の た た に し に た の 、 の た に し に た の 、 の た に し に た の 、 の た に し に た の 、 の た に し に た の 、 の た に し に た の 、 の た に し に た の の の の で た に し に た の の の の で た た い た の の の の で た た い た の た の た の た た に の た の の の た の の の た の の の た の の の た の た の た の た の の の の の の の の の の の の の
ま 文等たた かと合 類別 を 別たを ののそこ 行 平新いが 親定 本 が 数 な の の な の な の の な の の な の の の の の の の の の の の の の
第40元母の定いから危い子に對しては、素 「「」」」では、「」」」では、「」」」では、「」」」」では、「」」」」では、「」」」」では、「」」」」」では、「」」」」」で、「」」」」」」」」」」

	* 大豊島商工業界を全日本に紹介に確から「本子」となる。 市工豊島」 明日 えの雄に備えし かの 激浪を受け、その がの 激浪を受け、その 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日 一日	↑ のとなえ方ご 中令市算方法については、出生が 高田二君子に置きる目が見たな地でした。 本会日本に紹介宜体のための不滅の金字塔 う 「南工豊島」明日まの地で備えられよ 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	第-1	豊島區正	-	ス 昭和25年1	月10日(6)
		羅濟部課、 一方るう年ン生れの人は、 の 昭和二十三年二月二十九日の 高 「一市から「一才」昭和二十三年二月二十九日 「一市から」 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 」 となる。 「一市」 「一市」 」 となる。 「一市」 「一市」 」 となる。 「一市」 「一市」 」 し 「一一二、 二二年末満はすべて「十五 「一二、 二二年末満はすべて「一一一 」 」 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	★ 大豊島商工業界を全日本に紹介宜使物の激浪を乗り切る唯一の物の激浪を乗り切る唯一のかの激浪を乗り切る唯一の	「商工豊島」發展の指針!	のが原則ですが、 の人は、同年二月一日午前客時以外は。 ②昭和二十四年一月一日生いう場合には、その この場合滿二十才とは云こいう場合には、その この場合滿二十才とは云この間が年 または 二月三十一日午後十二時年から同年 一日年前客時から同年	生の日から、起算した室敷へ、留加した、という、という、という、という、という、という、という、という、という、という	年令計算に關する法律目から起算し、層に從つ居ましたが、一月一日出生の日を全一日として致え年によって云い表午前沿時でい場合でも、のならわしで、一般に一年令計算については、出のならわしで、一般に一年令計算については、出のならわしで、一般に一年令計算については、出す合のとなえ方こ
	<ul> <li> <ul> <li> <ul> <li> <ul></ul></li></ul></li></ul></li></ul>	面 〇 豪 内 業 の 一         れ         「 東 華 種 概         振         期 要         娘         名         報         報         留         日         四 要         報         報         日         四         四         項         華         和         和         和	<ul> <li>湾課へ予約せられよ</li> <li>やの不滅の金字塔</li> <li>りたい</li> </ul>		(3年令は、 一の場合は、 一の場合は、 すべて 単に たとたした とか二十日とか をつけ 前 の場合は、 すべて 単に 人 前 が の 場 に ー 年 以上の 場 が の 場 の に の に の に の に の に の に の に の の に の の に の	か月一となる。 せいり 三月二十八日の 滿了にて、二月二十八日の 所了に しから 「一度」	3昭和二十四年二月には二十 (うるう年)生れの人は、 (うるう年)生れの人は、 (うるう年)生れの人は、 (うるう年)生れの人は、 (うるう年)ーカチ」となる (うるう年)生れの人は、 (うるう年)ーカチ」となる (うるう年)ーカチ」となる (うるう年)ーカチ」となる (うるう年)ーカチ」となる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)ーカチョンとなる (うるう年)の(うる)の(うる)の(うる)の(うる)の(うる)の(うる)の(うる)の(うる
は長長賀 m 宮安丹森元早長村沖闊木眞長羽竹植大齊田 崎井野川谷川汐山 長 武 武 武	宮安丹森元早長村沖闘木眞長羽竹植大齊田 崎井野川谷川汐山 長 二 二 二 二 二 山後島前田佐 松 の 豊 二 二 山後島前田佐 松 の 豊 二 一 一 豊 田 島 の 大 一 長 水 一 岸藤田島中 大 岡 一 一 長 本 一 長 本 一 長 本 一 本 二 本 山 後島前田佐 七 島 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 世 本 田 島 中 本 一 大 一 一 一 一 一 一 一 本 一 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 二 本 一 本 一 本 二 本 一 本 一 本 一 本 一 本 一 本 一 本 一 本 の の の 一 本 一 本 の の の の の の の の の の の の の		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	「 <i>11 ク 11 11 11 11</i> 」 、	(議 區 盘 空 室 雪 室 室 雪 室 室 雪 室 雪 室 雪 室 雪 室 雪 室 室 雪 室 室 雪 室 室 雪 室 主 査 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	建土 森木田村 藤 聖 田村	り申上げます
富安丹森元早長村沖闊木眞長初竹植大齊田 崎井野川谷川沙山     村田島夏初竹植大齊田 村田島克肉木道藤村 新一岸藤田島中々人     島月     位年       「「」」」     一二二二二     一二二二二     一二二二二     一二二二     一二二二     一二二二     一二二二     一二二二     一二二二     一二二二     一二二     一二二     一二二     二二二     二二     二     二二     二二     二二	宮安丹森元早長村沖闊木眞長羽竹植大齊田 騎井野川谷川沙山 長 二 五 軍虎重字太 六 飲次三太英博三彌知太 郎 路吉吉吉郎宮松貞子郎郎郎一司郎助丧郎 ( な 報 一 な 、 な 、 な 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	Image: 1     Ima	杉竹加關岩笠池保森田今依 浦內藤口崎原上刈 島泉 雷太計正孫 勝幸鎮 天	在市北山秋島森第 日川下元田 井 に徳 勝 幸 三肆虎正太茂太 目的別雄雄郎吉朗	語の語の語を語る	<sup>♪後</sup> 務 三 <sup>↓後</sup> <sup>秀軍</sup> 雄 崇 郎 吉一	ます